

学校給食と食育

黄 海玉 (筑波大学大学院／教育制度学)

未来の食卓

～あなたの「おいしい」、危なくありませんか？～

- ◆ 種別：DVD ビデオ (映画)
- ◆ 監督：ジャン＝ポール・ジョー
- ◆ 製作年：2008 年
- ◆ 製作国：フランス
- ◆ 発売／販売元：アップリンク
- ◆ 時間：本編 108 分+特典
- ◆ 音声：オリジナルフランス語
- ◆ 字幕：日本語



© UPLINK

あらすじ

食卓から始まった小さな奇跡が人々の幸せを紡いでいく南フランスの小さな村の 1 年間を描き、オーガニックブームを巻き起こしたドキュメンタリーである。

美しい自然に囲まれた南フランスのバルジャック村のショーレ村長は子どもたちの未来を守るため「学校給食と高齢者の宅配給食をオーガニックにする」という前例のない試みに挑戦した。「値段の高いオーガニック給食を村の財政でまかなえるのか」と始めは戸惑っていた大人たちだったが、給食や学校菜園での野菜作りを通して自然の味を覚えた子ども達に巻き込まれ、小さな村は少しずつ変化していく。(DVD パッケージの紹介より)。

シーン再現

バルジャック村長：給食のオーガニック化は、たった 13 人の村議会が決めた。村民の意識調査もしていない。我々の食に対する見方は皆さんと違うかもしれない。我々は独自の方法を選んだ。今、それを広めるところだ。費用はかかるというのが健康は値段の問題ではない。汚染血液の加熱処理は高くつく。非加熱処理にした結果どうなったか。人々の血液は侵され悲劇が起きた。代償として費用が加熱処理の 3 倍かかった。我々の村議会では会計を優先しない。先に費用の心配をするな。相談相手は自分の良心それしかな

Chapter

1. 食卓上の危機／09'28
2. 給食のオーガニック化への挑戦／11'04
3. 環境汚染状況／7'45
4. 国際会議／8'08
5. 学校での取組／8'49
6. オーガニック食のオープンパーティー／8'50
7. オーガニック農家と一般農家の対話／16'08
8. オーガニック化による変化と課題／13'45
9. 学校給食の変化／8'90
10. 政府の支援のあり方／14'40

※ チャプタータイトルは、内容がわかるように筆者が補った

い。

教育学の視点から



オーガニック食材の給食を食べる子どもたち

映画の始めと終わりの部分に、バルジャック村の子どもたちが歌っている場面がある。その歌は、次のような歌詞である。

平野セメント山へながれ／
僕らの田舎や泉に毒があふれる／
嵐に暴風雨／僕らの歴史も沈む／
合言葉はいつも“健康なフリを”／
暮らしのために空気を買う／
石油のマネは命を

脅かす／地球のどこにも逃げ場はない／
さまよう無断居住者人ごとじゃない／
世界を変える時が来た／
樹々を持って民衆よ／
今こそ立ち上がる時が来た／
明日に続く世界のために／
誰かを責める場合じゃない／
自分たちが動かなければ始まらない／
闘いの時がきた…。

子どもたちをはじめ、人々が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにするためには、何よりも「食」が重要である。しかし、近年、放射能汚染による食の安全等、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化している。これらの問題の解決には「食育」が大切である。

現在、学校における食育の生きた教材として、学校給食の充実を図る必要性が高まっている。学校給食は、子どもたちに自然の恵みや勤労の大切さを教え、地域の伝統のある食文化の継承を図ることのできる大切な教育機会である。ドキュメンタリー中のバルジャック村の子どもたちは、まさに学校給食を通して、歌詞にあるような世の中の現状を認識し、身の周りの食の安全や生活環境を守るために自分たちで取り組み始めている。

日本においても近年、上述のような「食育」の一環として学校給食の改善に向けて様々な取り組みが見られる。しかし、バルジャック村のように、地域の単位で動き出し、財政的支援まで行くとことはほとんどみられない。行政的支援をはじめとする地域全体をあげた取り組みこそが、求められているのではないか。このドキュメンタリーはまさにそのことを考えさせる作品である。

自然のまま！

Information

【DVD】世界が飢えていくメカニズムが分かる。

『ありあまるごちそう』（原題：WE FEED THE WORLD）2005年、監督：エルヴィン・ヴァーゲンホーファー、製作国：オーストリア、発売：アンブラグド／メダリオンメディア、本編96分、オリジナルドイツ語とその他音声、日本語字幕。